

愛知県地震概況

令和7年（2025年）9月

この資料は速報であり、後日の調査で修正することがあります。

〇概況

1. 愛知県内で震度1以上を観測した地震の状況

9月に愛知県内で震度1以上を観測した地震が1回発生しました。

2. 愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震

①07日10時50分愛知県西部でM4.1の地震（最大震度2 深さ39km）が発生しました。

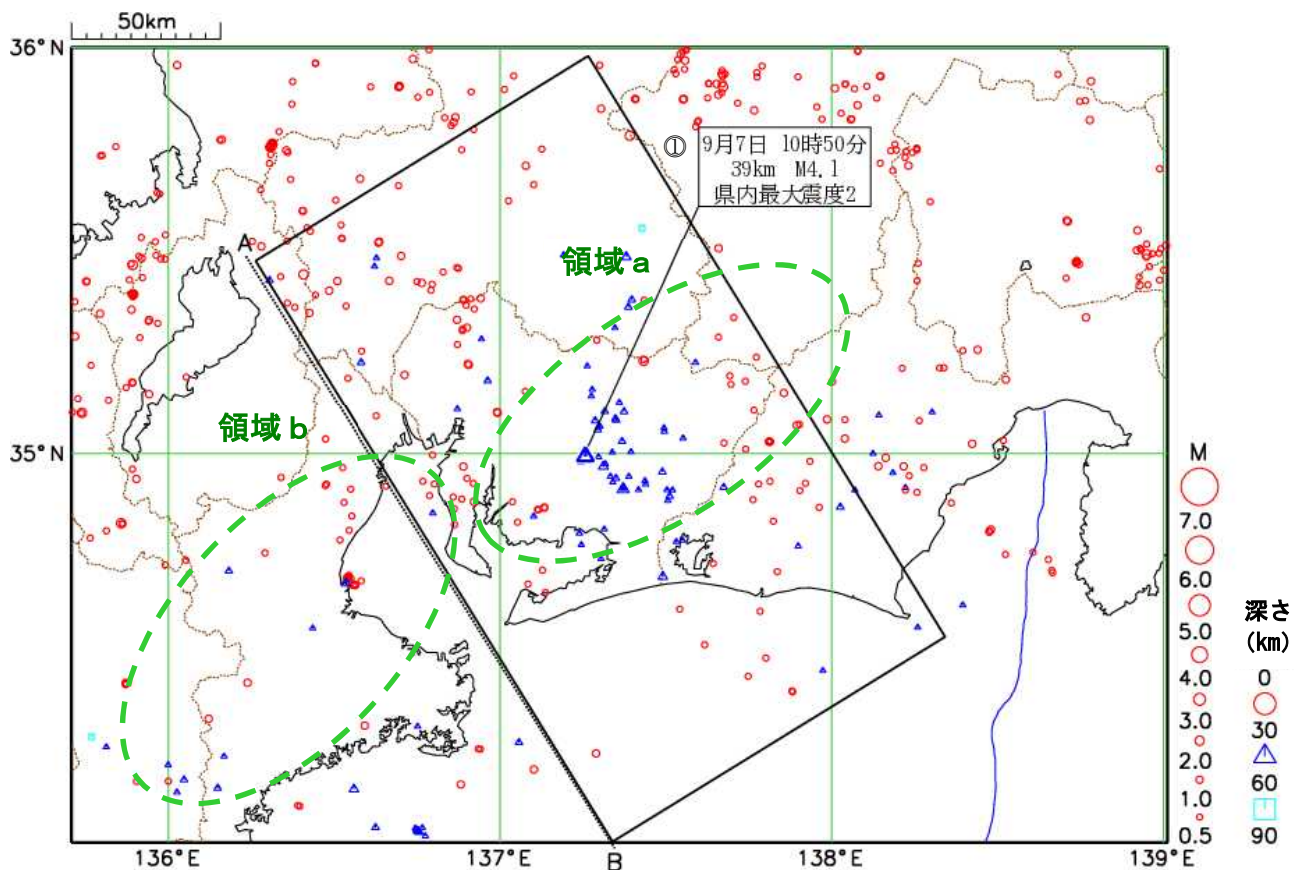
3. 深部低周波地震の活動状況

・東海（領域a）

2日～9日、27日

・紀伊半島北部（領域b）

22日

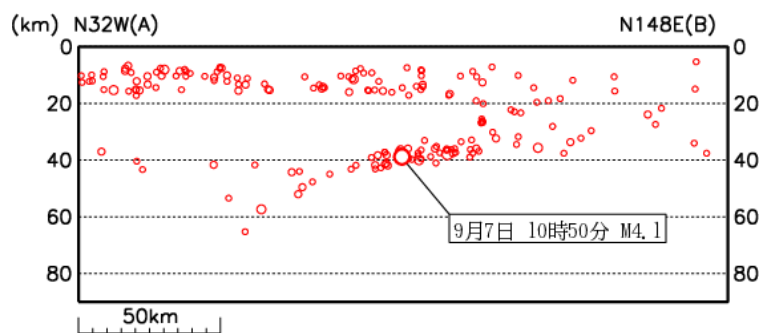


震央分布図（2025年9月1日～30日 深さ0～90km M≧0.5）

● 深部低周波地震（微動）

深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。

（注）Mはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、A－Bに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。深さ 25km 程度までの浅い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

○県内で震度 1 以上を観測した地震

愛知県西部の地震（1 頁目震央分布図①の地震）

7 日 10 時 50 分愛知県西部で発生した M4.1 の地震（深さ 39km）により、東海地方及び長野県、滋賀県で震度 2 ～ 1 を観測しました（図 1）。

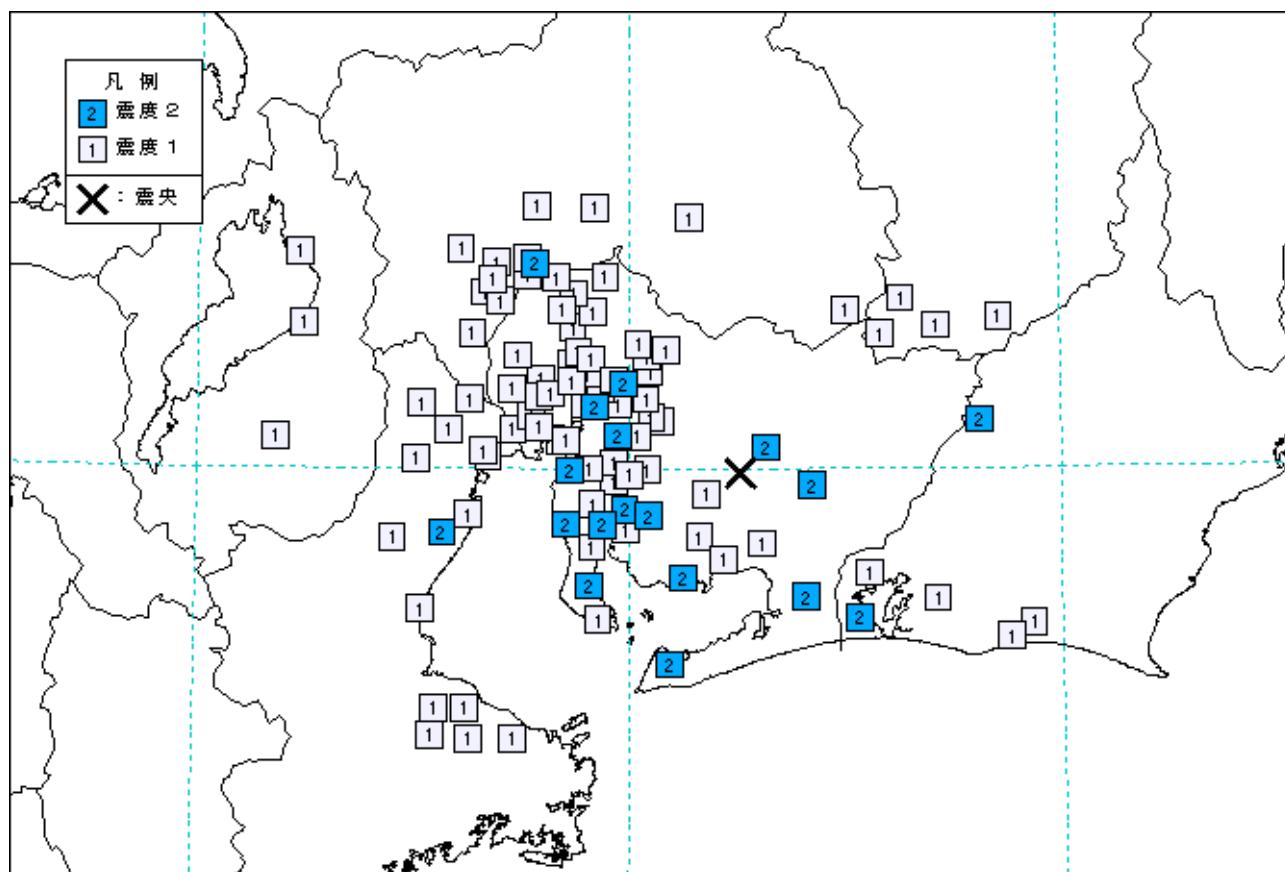


図 1 7 日 10 時 50 分 M4.1 震度分布図
（観測点別、×：震央）

○震度 1 以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度					
2025 年 09 月 07 日 10 時 50 分	愛知県西部	34° 59.5' N	137° 15.4' E	39km	M4.1
愛知県	震度 2：豊橋市向山、新城市作手清岳、新城市作手高里松風呂＊、新城市大野＊、新城市東入船＊、田原市福江町、名古屋瑞穂区塩入町＊、名古屋緑区有松町＊、名古屋名東区名東本町＊、半田市東洋町＊、豊田市大沼町＊、豊田市長興寺＊、安城市和泉町＊、西尾市西幡豆町＊、西尾市矢曾根町＊、常滑市飛香台、知多市緑町＊、高浜市稗田町＊、愛知美浜町河和＊				
	震度 1：豊橋市東松山町＊、豊川市赤坂町＊、豊川市小坂井町＊、豊川市御津町＊、蒲郡市御幸町＊、蒲郡市水竹町＊、新城市乗本、新城市作手高里縄手上＊、新城市長篠＊、田原市古田町＊、田原市田原町＊、田原市赤羽根町＊、名古屋千種区日和町、名古屋北区菟野通＊、名古屋西区八筋町＊、名古屋中村区大宮町＊、名古屋中区県庁＊、名古屋昭和区阿由知通＊、名古屋熱田区一番＊、名古屋中川区東春田＊、名古屋港区金城ふ頭＊、名古屋港区善進本町＊、名古屋守山区下志段味＊、名古屋守山区西新＊、名古屋天白区島田＊、岡崎市若宮町、一宮市千秋、一宮市西五城＊、一宮市木曽川町＊、一宮市緑＊、瀬戸市追分町＊、碧南市松本町＊、刈谷市寿町＊、豊田市小坂本町、豊田市小坂町＊、豊田市駒場町＊、豊田市坂上町＊、豊田市足助町＊、豊田市小渡町＊、安城市横山町＊、西尾市一色町、西尾市吉良町＊、犬山市五郎丸＊、中部国際空港、愛知江南市赤童子町＊、小牧市安田町＊、稲沢市平和町＊、稲沢市稲府町＊、稲沢市祖父江町＊、東海市加木屋町＊、大府市中央町＊、知立市弘法＊、尾張旭市東大道町＊、岩倉市川井町＊、豊明市沓掛町＊、日進市蟹甲町＊、東郷町春木＊、蟹江町蟹江本町＊、飛島村竹之郷＊、阿久比町卯坂＊、東浦町緒川＊、南知多町豊浜、武豊町長尾山＊、幸田町菱池＊、愛西市稲葉町、愛西市石田町＊、愛西市江西町＊、清須市西枇杷島町住吉＊、清須市清洲＊、弥富市神戸＊、愛知みよし市三好町＊、あま市七宝町＊、あま市木田＊、長久手市岩作城の内＊				

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『<https://www.data.jma.go.jp/nagoya/index.html>』からも随時ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。

※2020 年 9 月以降に発生した地震を含む図については、2020 年 8 月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

（注 ＊印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。）

南海トラフの地震活動の長期評価 (第二版一部改訂)

地震調査委員会は、海のプレートと陸のプレートの境界に位置する海溝沿いで発生する地震（海溝型地震）について、長期評価を公表してきました。南海トラフについては、2013年（平成25年）5月24日、それまでに得られた新しい調査観測・研究の成果を取り入れることにより第一版を改訂し、第二版として長期評価の公表を行いました。

第二版の公表以降、全面的に改訂するような新たな調査研究の成果はないものの、一部で新たな知見が得られていました。今回、それらの新たな成果を取り入れるため、データ及びパラメータの不確実性を考慮した確率計算手法も取り入れ、将来南海トラフで大地震が発生する確率を改訂した結果等について、第二版の一部改訂としてとりまとめられました。

改訂の主なポイントは以下のとおりです。

南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）のポイント

令和7年9月26日

地震調査研究推進本部 事務局

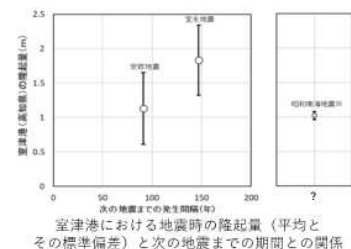
- 第二版において地震発生確率の計算に用いていた、地震時の室津港（高知県）の隆起量の推定値について、今般、新たな知見があったため評価に反映させることとし、地震発生確率に関する部分のみを改訂する（一部改訂）。
- 2つの計算方法を用いて各々地震発生確率を計算した結果、**共に最も高いⅢランク**※に分類される値となった。
- **地震発生確率についてⅢランクという評価は変わっておらず**、国、地方公共団体、住民などは、地震発生に対する**防災対策や日頃からの備えに引き続き努めていくことが必要**。

※ 30年以内の地震発生確率に基づきランク分けを行っており、海溝型地震の場合、**確率の値が26%以上の場合、最も高い「Ⅲランク」**としている。

1. これまでの経緯

- 地震調査委員会は、防災対策の基礎となる情報を提供するため、将来発生すると想定される地震の場所、規模、発生確率について評価し、これを長期評価として公表。
- 「南海トラフの地震活動に関する長期評価」の第一版は平成13年に、第二版は平成25年に公表。
- 南海トラフ地震の発生確率の計算にあたって、第一版時から用いていた「時間予測モデル」※については、この概念を計算に用いるべきか否かが議論がある。

※地震規模に相当する観測値（室津港の隆起量）と地震発生間隔の比例関係（時間予測モデル）から得られる次の地震までの発生間隔をBPTモデル（ブラウン緩和振動過程モデル）のパラメータの一つである平均活動間隔として適用し発生確率を計算。一方、南海トラフ以外の他地域の海溝型地震では、時間予測モデルに適用できる地震規模に相当する観測値がないため、地震発生履歴のみからBPTモデルを用いて発生確率値を計算している。



2. 地震発生確率の計算方法の主な見直し

1 隆起量データの見直し

隆起量データには誤差があるとの新たな知見を反映した。見直した隆起量データは次回地震までの間隔と概ね正しい比例関係にあることを改めて確認。

2 地震発生確率計算モデルの見直し

時間予測モデルとBPTモデルを融合した「すべり量依存BPTモデル」を新たに採用。BPTモデルも使用。これら2つのモデルによる確率は**科学的にどちらが良いのかは優劣つけられない**。

3 データの少なさへの対応

発生頻度が少ない大地震に関するデータのように、少ないデータからでも安定した推定が可能となる統計学的手法を適用して、地震発生確率を計算。これにより、**確率の分布を表すことができるようになり、推定値のばらつきを定量的に評価できるようになった**。

3. 地震発生確率の見直し結果

2つの計算方法を用いて算出した確率を両方とも提示



国や地方公共団体等が、防災対策を推進するにあたって、住民等に対して、最も高い「Ⅲランク」を示すことを強く推奨する。一方、確率の具体的な値を示す必要があるときも想定される。その場合には、「疑わしいときは行動せよ」等の考え方に基いて、2つの計算方法の中でも、より高い方の確率値（今後30年以内で60%~90%程度以上（2025年1月1日時点））を強調することが望ましい。

M8~9の地震	用いたデータ	ランク (2025/1/1時点の今後30年以内の発生確率)
第二版	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (80%程度)
第二版一部改訂	・隆起量データ ・地震発生履歴	Ⅲランク (60%~90%程度以上)
	・地震発生履歴	Ⅲランク (20%~50%)

（出典：地震調査研究推進本部 事務局資料）

今回、地震発生確率が改訂されましたが、最も高い「Ⅲランク」という評価自体は変わっていません。引き続き、防災対策や日頃からの備えに努める必要があります。

詳しくは、以下リンクで確認いただけます。

地震調査研究推進本部 地震に関する評価

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/#nankai_t